

# 民報あばしり

No. 962

2014・3・23

発行所

日本共産党  
網走市委員会  
網走市北八西三  
四三・四四五八  
F 四三・四四五七

## 消費税増税で市税にも影響が!

市議会、予算等審査特別委員会の質疑で消費税が市の税収にも影響が出る事が明らかになりました。

「市の固定資産税と都市計画税は平成20年度と24年度を比較すると2億4千万円余も減少している要因」を質問。

「景気低迷で新築や設備投資がなされなかつたこと、土地の評価額の下落など」と答弁。

松浦議員はさらに、消費税増税の影響について「景気が冷え込むことが予想されるため、税収は半分伸びないのではないか」との答弁になりました。

4月からの消費税増税は、収入の多い少ないに関係なく、買い物をするたびに市民の負担が増えるだけでなく、景気の低迷や市の税収の減少を招くということ、あらためて明らかになりました。

来年には、消費税をさらに増税するという計画も進行中です。日本共産党は増税反対の運動を市民の皆さんと共にさらに強めていこうと考えています。

### 「請願」の審議の結果は?

今議会、委員会でも審議された請願は、先週号でお知らせした「消費税増税の凍結を求める」請願と「年金切り下げ反対」の請願以外に7件ありました。

そのうち、次の3件は、共産党議員が紹介議員となったものです。

●住民の安心安全を支える「国の出先機関」の拡充を求め「公務の民営化・独立行政法人化・業務委託」に反対する

意見書提出（北海道国家公務員関連労働組合協議会、国土交通労働組合地方協議会提出）

●集团的自衛権行使による「戦争する国」づくりに反対する意見書提出（平和憲法を守る網走の会提出）

●特定秘密保護法の撤廃を求める意見書提出（平和憲法を守る網走の会提出）

いづれも他会派の反対や「継続」の主張によって、継続審議となり、採択に至りませんでした。

他には手話言語法を求める意見書提出（北見ろうあ福祉協議会提出）は、共産党議員も賛成して採択となりました。

しかし次の3件は  
●特定秘密保護法の撤廃を求める意見書提出（連合提出）

●地方自治体の臨時・非常勤職員の待遇改善と雇用安定のための法改正に関する意見書提出（連合提出）

●労働者保護ルール改悪反対を求める意見書提出（連合提出）

共産党議員は賛成しましたが、いづれも継続審議となり残念ながら採択されませんでした。



### いっせえ東奔西走

三月議会（予算議会）が終わろうとしています。今回の議会は、流水館建替え事業と市民健康プール事業が入ったため一般会計で239億円の大型

予算になりました。市民健康プールは27年ごしの通年化建替えで平成27年度に新たにスタートします。着工は4月を過ぎてからです。これからは健康増進機能も兼ね備えたプールですので、泳ぐことはもちろんのこと、楽しく健康づくりが出来るよう、水中歩行や水中運動などのソフト事業をいかに工夫して企画して行くのか、これからの正念場です。

水中での運動は腰や脚の膝に負担がかからないことから、障がいをもつ方にも大変有効です。冬に裸になって運動できるなんて爽快ではありませんか。私も加齢や腰痛のため運動不足は免れませんが、プール完成を楽しみにしている一人です。そうはいっても現役時代より20キロ増量した体を見るにつけ、水着をはいた姿を頭に浮かべ、プールに行く前に減量するか、プールでスリムになるか、多いに悩む今日このごろです。

### 松浦奮戦モロ

予算等審査特別委員会も20日審査が終了しました。連日の質問と準備に追われる毎日でしたが、なんとか終了しました。

後は、来週の24日に委員会の取りまとめと委員会としての採決があり、25日に反対・賛成の討論を行って終了します。今回の新年度予算を審査していて、いくつかの場面で消費税増税の問題がでてきました。

例えば、低所得者へ臨時福祉給付金というのが、できて1万円を支給するというものですが、この給付金は一回限りのものです。

しかし、消費税は生まれた瞬間から死ぬまで、どこか死んでも葬式代まで消費税を払わなければならぬもの、消費税は「百害あって一利なし」と、主張しました。

また、消費税増税に関連して8つの条例の一部改正案が提案されましたが、いづれも来年10月からの消費税10%の増税を見越して、自動的に上がる条例になっていました。当然ですが、共産党議員団は反対しました。

### 流水

「夫とけんかができるようになった」という人がいて感動した。「あらケンカしないうつて」やら「子どもに敬意を払うってなかなかできなかった」「従軍慰安婦の問題は根が深い」「まだ解決してないし知らないことがいっぱい」▼「3・8国際女性デー」に参加した時のこと。今年もテーマ別にテーブルを囲んで語り合う形式。本質的な問題提起を、みな和気あいあいと、かつ真剣に語り合っている▼この一年、友人からどういふ暮らし方を求めていくのか考えた、と手渡された「幸せの経済学」。「食べかけだった、読んでみて」と手渡された「飼いの喰い」。離れて住む友人からも読んでみてと「腐る経済」が届いた。みんな30代。ネットを取り出して、「脱原発」のブックカバーを紹介してきたのは20代の女性。カバリーには「原発をゼロにしてから死ぬのが大人の責任だ」と思うとある▼デモやホームレスの派遣村、全国の原発からの放射能に見立てた風船を飛ばす試み（新聞を読んでカンパしちやいました！）

といった可視化の重要性を考へる一方で、見ようとしなければ見えない何か起きていない、何かが変わりつつあつて、と感ずる。そのことを受けとめるアンテナを磨かなければ、と思う▼3・8で集まった参加者達の、生き方を模索している姿にさらにその思いが深まった一日だった。（た）